

令和6年度 学校評価報告書（目標設定）

	視点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者 評価	総合評価	
				具体的な方策	評価の観点	達成 状況	課題 改善方策等		成果と 課題	改善 方策等
1	教育課程 学習指導	① 生徒が主体的に学ぶ意欲を養い、自ら課題を発見し解決するための思考力、判断力、表現力を育む。 ② 学校行事や生徒会活動を充実させ、生徒の主体性の伸長を図る。	① 「プログラミング」的思考を土台とした生徒の可能性を広げる授業」を目標とし、組織的な授業改善を行う。 ② 学校行事や生徒会活動を生徒主体で取り組ませることにより、成功体験を積みませ、成長させる。多くの場面で、生徒に場を設け発信する機会を作る。	① 組織的な授業改善を深化させ、生徒の学ぶ意欲を高める。 ・10の技法を意識した授業実践により、生徒の思考力、判断力、表現力を育む学習指導を行う。 ② 生徒会行事等を生徒主体で企画、立案、運営させることにより、生徒の自主性・主体性を育むとともに、コミュニケーション力を培う。	① 生徒による授業評価で「考えをまとめる授業」「課題解決方法を考える」項目で評価3・4を合わせて90%以上となったか。 ・全職員が、授業で「10の技法」のロゴをプリントに示したり、黒板に提示するなど、生徒の思考を促すことができたか。 ② 様々な場面で生徒に活動する場を設けるとともに、生徒主体で行事や生徒会活動を行い、成功体験を積み人として成長することができたか。					
2	生徒指導 ・ 支援	① 基本的な生活習慣・社会的な生活習慣を定着させ、平和と人権を尊重する公民の育成をめざす。 ② 部活動を活性化させ、責任感や連帯感を育成する。	① 生徒の現状に合った指導の徹底と交通安全の意識を高め、事故発生等を減らすように努力する。 ・頭髮、服装指導を徹底して規範意識を高めていく。 ・困難を抱える生徒の把握に努め、適切な支援を確実に行う。 ② 部活動リエンゲージメント・部活動体験を充実させるとともに、中学生への発信を重視し本校で部活動をやりたい生徒を一人でも多く獲得する。	① 生徒との信頼関係に基づいて、頭髮・服装指導や遅刻指導を粘り強く実施する。 ・交通事故の防止と交通安全の指導を徹底する。スタート・ストリート交通安全教室などを通じて交通安全の意識を徹底する。 ・かながわサポートブックも活用し、SC・SSWと連携し、教育相談体制を拡充させる。 ② 部活動の加入率を上げ、部活動等を通して自己有用感を高めるとともに、主体的に学校生活を送る態度を養う。	① 頭髮、服装指導の件数が例年に比べて減少したか。 ・交通事故の発生件数や、苦情の件数は減少したか。 ・校内において生徒が安心安全な学校生活を送ることができているか。 ・生徒の情報の把握と共有を行い、困難を抱える生徒に適切な支援を行うことができたか。 ② 部活動入部率が、新入生で45%以上、学校全体で40%以上であったか。					
3	進路指導 ・ 支援	① キャリア教育実践プログラムを充実させ、生徒のめざす進路希望実現を支援する。	① 進路実現に向けて、1・2年生での進路探究を進め、職業理解・自己理解を深める。 ② 生徒や保護者に向けた各種情報発信を工夫する。 ③ 基礎学力を高め、生徒一人一人に合った進路支援をし、希望する進路の選択肢を広げる。	① キャリア計画「西浜高校の36ヶ月」を基に、生徒が自らの進路について考え、実現できるよう適切に支援する。 ② Classroom やiComerlなどを活用し、進路関連情報を生徒や保護者に提供する。 ③ ステイプリアリや外部試験等も活用し、基礎学力の拡充を図る。模試や模擬面接などを通して、具体的な進路支援を行う。	① キャリア計画に沿って進路活動が実施できたか。 ・インターシップなどの活動への参加が増えたか。 ② 年間を通じて、その時期に応じた進路情報を生徒や保護者に適切に提供できたか。 ③ 外部試験の結果を分析し、学力向上に反映することができたか。具体的な進路支援が効果的であったか。					
4	地域等 との協働	① 保護者、地域と連携し、信頼される学校づくりを推進する。 ② 学校からの情報発信に努める。	① 学校運営協議会やPTA、地域と協働し、信頼され生徒が活躍できる学校づくりをめざす。 ② 学校説明会、中学校への学校紹介資料の配付、HP等を通して本校の特色を幅広く紹介する。	① 学校運営協議会をはじめ、地域自治会・上級学校・企業・保護者等と連携し、生徒の活動の場を設ける。 ・教育活動への保護者の積極的な支援や参加を促す。 ② 学校説明会や学校紹介資料、学校HPの充実を図り、本校の魅力・特色を幅広く適時に発信する。	① 学校運営協議会によって課題や目的を共有し、改善できたか。 ・PTA活動への参加者が、昨年度よりも増えたか。 ・地域の方々が、防災研修等へ参加できたか。 ・地域の要請に応じて積極的に参加できたか。 ② 学校説明会等で学校の魅力特色を適切に伝えられたか。 ・HPは常に最新データに更新されたか。					
5	学校管理 学校運営	① 安全で安心な教育環境を確立する。 ② 教職員の働き方改革に取り組む、ワークライフバランスを推進する。 ③ 教職員全体で事故防止に取り組む。 ④ 学校図書館を学校生活の様々な場面で活用する。	① 職員・生徒・保護者等が一体となってより良い教育環境づくりを目指す。 ② 業務の精選と分担を見直し、組織的な業務改善を行う。 ③ 不祥事防止資料を効果的に活用し、有効な研修を実施する。 ④ 学校生活の様々な場面を想定して、生徒や先生がより利用しやすい図書館運営を目指す。 ・図書館への信頼を得るべく、日々の業務の積み重ねを丁寧に行う。	① 安全安心な教育環境の整備を徹底する。 ・防災意識を高め、一人ひとりが自分事として捉えられるような学校防災の取組を実践する。 ② 会議や業務の精選を図り、年次休暇等の取得や時間外勤務の短縮を徹底する。 ・業務リソース等の人材を有効に活用する。 ③ 事故防止会議だけでなく、教職員としての自覚、責任、誇りを持つような研修を通し当事者意識を高め、日ごろから風通しの良い職場環境づくりを推進する。 ④ 本校生徒のニーズに合った図書館運営を行う。 ・授業利用時間数の増加を目指して、より利用しやすい環境や状況を整える。 ・地域との連携を深め、図書館情報を積極的に内外に発信する。	① 美化委員会やPTAと連携し、環境整備を計画的に実施できたか。 ② 全職員が1日を単位として10日以上年次休暇を取得するなど業務時間の短縮が図れたか。 ・人材を計画的、組織的に活用できたか。 ③ 不祥事防止会議や研修会が計画的に実施できたか。 ・事故不祥事の発生が防げたか。事案発生の際に適切な対応が取られたか。 ④ 本校生徒のニーズに合った資料収集や活用、イベント、図書委員会活動などができたか。 ・授業時間数や利用される場面は増加したか。 ・図書館について校内校外それぞれに向けた手段で情報を発信することができたか。					